福井の文化をきり拓く　Fukui Art Culture Forum

Fukui+art
FUKKart

ふっか～と
2011.3
Vol.35

「FUKKart（ふっか～と）」は福井市文化会館を拠点に活動するNPO法人福井芸術・文化フォーラム発行の文化誌です。

ASOBI座の１年を振り返る

「交流」をテーマに、2010年度から新たに始めた「月刊ASOBI座」。舞台作品を一方的に鑑賞しておしまいにするのではなく、体験や講座、出演者らとの交流を盛り込み、舞台芸術をもっと身近に感じてもらおうと、毎月１回企画しています。１年間のラインナップを振り返りながら、課題や今後の展望などをまとめました。

どんな思いで始めたか

まず最初にあったのは、客席と舞台の距離感を縮めたいということでした。私たちはこれまでにさまざまな公演を企画してきましたが、お客様の目線に立ったとき、舞台が「遠い」のではないかと思いました。物理的な距離ということではありません。作品を鑑賞するだけではなく、お客様が出演者から直接話を聞いたり、作品についてお客様どうしが話し合う機会などがあれば、もっと舞台を身近に感じてもらえるのではないかと考えたのです。

また、ちょっと興味はあるけどなかなか劇場に足を運べない初心者の方にも気軽に参加してもらえるような場をつくりたい。さらに、観るだけでは飽き足らない方が次の一歩を踏み出せるような場をつくりたい、という思いもありました。

実際のラインナップ作成にあたっては、開催日時や対象をある程度固定したほうが事業実施を印象づけられてよいのではないかという意見もありましたが、まずは特に固定せずにさまざまなテーマでやってみることになりました。ただし、“舞台とお客様”あるいは“お客様どうし”の「交流」という要素を必ず盛り込んで企画を立てていきました。

この１年を振り返る

橋本姉妹のピアノ連だんコンサート♪ ～聴いてみよう、弾いてみよう～

2010年6月26日（土）　福井市文化会館　ホール

月刊ASOBI座シリーズの１回目。堅いイメージを持たれがちなクラシック音楽をカジュアルな雰囲気で楽しんでもらおうと企画しました。曲の解説や会館のピアノにまつわるエピソードも紹介。バレエ組曲「くるみ割り人形」では、演奏に物語の朗読を織り交ぜ、聴く人の想像力をかきたてました。体験コーナーでは客席の子どもたちが舞台に上がり、出演者との連弾演奏に挑戦しました。

ダンスワークショップ＆トーク　コンドルズ藤田善宏の放課後ダンスクラブ

2010年7月9日（金）　福井市文化会館　ホール舞台上

ダンス経験の区別なく楽しみながら身体を動かしたり、表現することの楽しさを感じてもらおうと、大人気のダンスカンパニー・コンドルズのメンバーで福井市出身の藤田善宏さんを迎えて開催。ダンスを間近で観たり、話を聴いたりしながら、藤田さんのダンス観に触れました。オリジナルの振付に挑戦してみるコーナーでは、食べるしぐさなど身近な動きからダンスの振付が生まれる面白さを味わいました。

人形劇団とんとの見る・作る・あそぶ人形劇体験

2010年8月1日（日）　福井市文化会館　大会議室

親子向けの企画。「人形劇を観る」ではなく、人形劇で使われる人形を作っている様子を見たり、実際に人形作りや人形操作などを体験してもらおうと企画しました。参加した親子は「人形の微妙な動き」「人形作りの難しさ」「人形の視線の奥深さ」など人形劇の舞台裏の魅力を味わいました。

思い出を歌おうステージコンサート ～デュオグループ「ココス。」とともに～

2010年9月18日（土）　福井市文化会館　ホール舞台上

ホール舞台上にピアノと椅子を並べ音楽室のような雰囲気をつくり、声楽家の笠原隆洋さんらの進行で、歌にまつわる思い出などを語りながら童謡やフォークソングなどを歌いました。聴くだけではない、お客様参加型のコンサート。福井県内で活躍中のデュオグループ「ココス。」によるミニライブも行いました。

座談会「福井の文化を語る夜」

2010年10月29日（金）　福井市文化会館　第5会議室

福井芸術・文化フォーラムの会員および一般市民が集い、福井市の文化振興のためにフォーラムは今後どのような活動を展開していくべきか意見交換しました。ASOBI座では、コンサートやワークショップだけではなく、このような座談会や講座も行いました。

能楽堂落語会 ～平治・染左のなるほど落語講座＆高座～

2010年12月5日（日）　福井能楽堂

他事業のスケジュールの関係から11月のASOBI座はお休み。12月は特別編として開催しました。落語家の桂平治・林家染左両師匠がトーク形式で東西（江戸・上方）の落語の発祥から現代に至るまでをレクチャー。体験コーナーでは、お客様の飛び入りで即席落語講座を開催。扇子を盃に見立ててお酒を呑む動作などを指南しました。もちろんお二人による落語もあり、落語ビギナーから落語通まで楽しめる落語会となりました。

芸文講座「曽根崎心中から見えてくる江戸時代の人々の生き様」

2011年1月29日（土）　福井市文化会館　大会議室

2010年11月より開講している舞台芸術講座（ワークショップ）「曽根崎心中を読む／演る」の関連公開講座として開催。ワークショップも含め、「曽根崎心中」という題材について、読んだり、演じたり、解説を聴いたり、と参加者が様々なアプローチで作品に触れることが出来る場を目指しました。

芸文講座「芸術・文化活動と知的財産権の基礎知識および最近の話題から」

2011年2月20日（日）　福井市文化会館　第3会議室

法律や権利という視点から芸術・文化に触れてもらおうと企画。講師に山下博さんを迎え、芸術・文化を鑑賞する人から職業として関わる人、ホール関係者に向けて、商標権や著作権など知的財産権各権について、モノマネや替え歌などの実例を交えて解説しました。

リーディング公演　近松門左衛門の名作「曽根崎心中」を聴こう

2011年3月20日（日）　FLAT2階（福井市順化）

舞台芸術講座（ワークショップ）「曽根崎心中を読む／演る」参加者による成果発表会（詳細は3ページ）。はじめて会館外の会場で開催しました。

1年を終えて　課題とこれからの展望

内容も形式もさまざまに開催してきましたが、いずれの回も「交流」をテーマに特色ある事業を展開できたのではないかと思います。しかし、毎回単発の内容でしたので、お客様からはもう少しひとつのテーマについて継続的に開催してほしい、との声がありました。事業の告知方法や開催場所についても課題があります。限られた予算と人員のなかで効果的に広報し、より多くの方に参加していただくにはどうすればよいでしょうか。お客様の中には、会館に足を運ぶことに馴染みのない方や足を運ぶのが難しい方もいらっしゃいます。同じ企画を会館の中だけではなく、たとえば街なかの空きスペースやショッピングセンターの催事場でやったらお客様の反応もまた違ってくるかもしれません。舞台芸術を身近に感じてもらうことが第一なら、アウトリーチ活動として会館の外で行うほうがより効果的だとも考えられます。

ASOBI座は、毎月新しい催しを届けていくことから、スタッフの企画運営力を高めるという点でも意味ある事業となっています。

2011年度は、このようなことを踏まえながら、ひとつのテーマについて継続的に開催する、会館の中だけでなく街なかや地域などでも開催する、これらをポイントにさらにASOBI座を展開していきたいと思います。（事務局N）

舞台芸術講座

『曽根崎心中を読む／演（や）る』終了報告

講師　人形劇団とんと　前田 耕一

市民参加企画「曽根崎心中を読む／演る」の成果発表を３月20日に呉服町のFLATで行いました。受講者は総勢11名でしたが、この日の発表には６名の受講者の方が参加しました。演者とお客さんが触れあうほどの狭い空間でしたが、とても良い発表会が出来たと思います。今回の受講者の特徴は、20歳代から80歳代までとても年齢幅がひろい方々が集まったことです。約半年間、私もこの幅広い年齢層の方達と楽しむことができました。と言うのも、練習の合間のおしゃべりのおもしろいことおもしろいこと。練習そのものよりこういったおしゃべりで世代間の文化の継承ができていることが講師としてはうれしいことの一つでした。もちろん練習にもその世代の考え方が反映されますので読みの練習をやっていても楽しかったですね。基礎練習の段階でも「曽根崎心中」の練習に入っても、年齢を重ねた方の表現力は厚みがありますので、

成果発表会より

会場 FLAT

ワークショップより

若い受講者の方もその厚みのある表現力を学ぶことができてとてもよかったと思います。講師としては抑揚やアクセントなど技術的な指導の他、言葉や台詞に対するアプローチの仕方、言い回し、ニュアンスなどは教えられますが、言葉の厚みというのは教えることができません。言葉に厚みを持たすには、人生経験を豊かにするしか方法がないのです。もっともこういった講座に参加しようとする若い人は、きっと将来その厚みのある言葉で表現できるようになると思います。昨年、今年と２回の市民参加企画を終えて、この企画の良さが再確認できました。「読み」の講座が続きましたので、また新たな表現ワークショップという内容でこの企画を継続したいと思います。

出演者アンケートより

- 楽しかったですけど、終わってみると反省点も多くて…。練習を重ねるごとに進歩しているのが感じられてうれしく思いました。“まだまだ伸びたい！”と思います。
- 発声だけでなく、歌や踊りの世界も触れさせて頂いてとても有意義でした。自分の読みの悪いところがよく分かって良かったです。
- プロの方からそれぞれの基本的な指導をうけられて良かった。特に本読みは今までの経験の中で最もしっかり指導していただけて嬉しかった。

観劇者アンケートより

- どの年代の方も共感できる内容でとても良かったです。（略）構成が今までに見たことのないものだったので新鮮でした。演じている人たちの演技もうまくて、世界観がよく伝わってきました。（10代・女性）
- 初めて参加させて頂きました。新しい世界を知ることができ、よかったです。（30代・女性）

芸術・文化分野におけるソーシャル・ビジネス／コミュニティ・ビジネス 上

㈳日本経営士会近畿支部幹事　山下 博

「ソーシャル・ビジネス（SB）」とは、社会的な課題に向き合い、その解決をビジネスの仕組みを使って解決していこうとする活動の総称である。

取り組まれるべき事業活動のミッションとしての社会的課題については、環境や貧困問題、少子高齢化対応、大都市と地方の格差解消に加え、障害者を含めた介護・福祉基盤整備等々があろう。

いわば上記の社会性に加えて、ソーシャル・ビジネスでは事業性と革新性も要請される。前者は、ミッションをビジネスの形に表し、継続的に事業活動を進めていくこと（ゴーイング・コンサーン）であり、後者は社会のニーズ、ウォンツに応え得る商品・サービスやそれらを提供するための仕組みを開発・活用することで新しい社会的価値を創出することにより、"イノベーション"の拡がりをもたらすものである。

また、「コミュニティビジネス（CB）」とは、住民が地域コミュニティに立脚して、その地域の資源（広義）を活用しながら地域の問題解決に取り組むことである。就労や起業の機会をも創出することにより、やがてビジネスとしての定着、継続、発展させていく活動の総称である。

発生史的にはCBが米国で、SBは英国（鳩山前首相提唱の"新しい公共"に通ず）だが、もとより両者は重なるものがあり、経済産業省ではSB／CBを使用することが多い。その担い手組織として、福井県内ではNPO法人、企業組合、有限責任事業組合や会社法上の４つの会社形態等が見受けられる。関心は高まっており、昨年10月には福井県健康福祉用具産業化研究会（県工業技術センター内に事務局。４年前にも「健康福祉用具をめぐる産業財産権」で講演）の依頼で「ソーシャル・ビジネス／コミュニティ・ビジネスの現状と課題及び関連施策」の演題で講演をした。

本シリーズでは３回に亘り、関係者間でも他分野に比べ、質量ともに取り組みの遅れが指摘されている芸術・文化分野でのその取り組みについて見ていこう。

EVENT SCHEDULE　イベントスケジュール　2011年 4月▶6月

4／3（日）	みんなで舞台に立とう！！シーズン6 ～もっとつながる･もっとひろがる～	会場：福井市文化会館 14:00開演　全席自由	おうえんチケット　300円 （高校生以上）
4／27（水）	二兎社公演『シングルマザーズ』	会場：福井市文化会館 19:00開演　全席指定	一般前売　S席　5,500円 A席　4,500円 学生（A席のみ）　2,500円
6／8（水）	月刊ASOBI座『伝統芸能カフェ』（仮称） Part1 三味線カフェ（出演：あべや）	会場：FLAT２階 詳細はお問い合わせください	

※公演の詳しい情報についてはお問い合わせいただくか、Webをご覧ください。　※上記は2011年3月31日現在の情報です。変更および追加となる場合があります。

FUKKART 舞台の裏から 4 ARTIST ESSAY

ダンスの祭典！D-1選手権が創る福井の未来

インターナショナルクラブ　山下 善久

毎年７月にジャンルを超えたダンス選手権を福井市文化会館にて開催しています。
多文化共生を進める我々としてはいろんな音楽や踊りの枠を超えて交流いただくとともに、そのルーツや文化にも興味を持っていただきたい。また実際にそれらの国から来た人が隣人として住んで居るという事を知っていただきたいと思い開催しています。
プロの音響と照明、沢山の観客、大きな舞台、そしてテレビとインターネットでの生放送。
踊る前の参加者の緊張と興奮の表情は活き活きしていて一瞬の舞台にかける集中力は素晴らしいものがあります。やり遂げた時の達成感、その緊張を共有した者だけが感じる一体感。
お互いを認め合い、そして次の瞬間、次回への挑戦がすでにそこで始まっています。いろんな踊りをみて興味が湧いたり、舞台に初めて立って「目覚めた！」という感想を聞くたびに主催者として心の中で「よし！」とガッツポーズをしています。福井に住む人が輝いて福井の魅力を発信しています。

編　集　後　記

■福井の駅周辺が少しずつ変わってきました。この街で楽しめることを作っていくのが私たちの仕事ですねぇ！（K.M）

■NPO法人加越たたら研究会（平成14年度県民社会貢献活動知事奨励賞受賞）では、平成22年度、三谷市民文化振興財団から２回目の助成金を受けて計測機器（初ケースで担当者に説明に出向いた）を購入し、作業の高精度化に取り組んできた。６月に開催の公開報告会では一連の作業映像等の解説とパネルディスカッション、作品陳列に加えて、私の「たたら、鉄、金属の川柳を詠む」の講演も組み込んだエンタメとする。興味のある方は金津創作の森までどうぞ。（H.Y）

福井芸術・文化フォーラムの活動を応援しています（2010年度法人賛助会員）

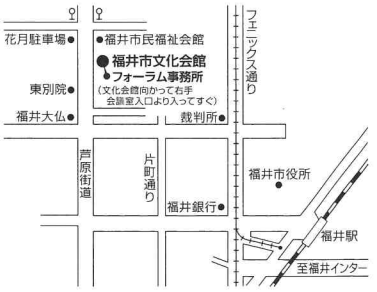
北陸労働金庫
財団法人 福井県予防医学協会
ホテルリバージュアケボノ
エースイン福井　（2011年３月現在）

発行・お問い合わせ

NPO法人
福井芸術・文化フォーラム

〒910-0019　福井市春山2-7-1　福井市文化会館内
TEL 0776-23-6905　FAX 0776-23-7905　開所時間 月～金 10:00～18:00／土日祝 休
Email geibun@geibun.info　URL http://geibun.info/

■福井芸術・文化フォーラムはどなたでも参加できる市民の団体です。
■ご意見・ご感想・ご要望は、メールまたはFAXでフォーラムまでお気軽にお寄せください。



2011年３月31日発行　通巻35号